

# 令和元年度 久米島西中学校 学校評価

## 【成果と課題、2学期に向けて】

※ 生徒・保護者・教員ともに4段階で評価。原則として7割となる2、8以下を課題、8割となる3、2以上を成果としてとらえ、分析・考察を行っています。

### 1. 学校評価から見えてくる成果 ※（ ）は評価項目番号

- 学習規律（学習用具の準備、机上の整理等）の確立、身だしなみを整えることができつつある。家庭でも「早寝・早起き、朝ご飯」にしっかり取り組んでおり、2学期以降も継続指導し、学習習慣・生活習慣の徹底を図りたい。（生徒1、教職員10、保護者25）
- 生徒指導について、生徒の悩みや問題についての対応は概ね適切に行われていると考える。今後も教育相談やアンケート等を確実に実施し、迅速かつ適切な生徒指導に継続して取り組みたい。（生徒11、保護者12、教職員43～46）
- キャリア教育において、総合的な学習の時間を中軸にした取組は、生徒の基礎的・汎用的能力の育成、主体的な進路選択の一助になっている。また家庭でも将来の事について話し合われており、2学期以降も継続実施していきたい。また自己の変化や成長を振り返ることができる記録の充実を図りたい。（生徒15、保護者18・19、教職員30・31、35～37）
- 命の大切さや社会のルールを守る等の豊かな心の育成については、生徒・保護者・職員とも意識して取り組んでおり、更なる充実を図りたい。（生徒16・20、保護者14・15・28、職員26・27）

### 2. 学校評価から見えてくる課題

- 学習面において「姿勢良く（立腰）」「分かるまで話を聞き」「自分の考えをまとめたり、発表したりすること」に課題がある。教職員は意識して指導しているが、まだ生徒の学習意欲・関心・態度及び思考力・判断力・表現力の向上につながっていない。（生徒2～4、教職員11・14・16・59・60）
- 家庭学習について、生徒は毎日取り組んでいるが、授業と連動した学習になっていないようである。（生徒22・7）授業の内容理解・定着を図る宿題（課題）の在り方について、再度検討する必要がある。また習慣化については、生徒と保護者の回答に大きなずれが見られる。実態把握とともに主体的な学習の習慣化を図る手立ての取組が必要である。（生徒22、保護者9）
- 学級活動で生徒の実態を踏まえ、主体的に生徒が意見を発表する話し合い活動に課題がみられる。「学校は楽しい」（生徒14）「先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」と（生徒9）と回答した生徒が7割であり、更なる向上を図りたい。
- 読書について、生徒、保護者ともに評価が低く、継続課題となっている。

### 3. 2学期に向けて

- (1) 全教科での「ファシリテーション」を取り入れた授業実践の徹底を図る。
- (2) 授業で生徒の到達度を見取り、家庭学習の課題について教科で検討する。学習習慣の形成を図るため、家庭学習の取組の充実を図り、授業で定着が不十分である生徒への指導に取り組む。
- (3) Q-Uアンケート等を活用して生徒の共通理解に努めるとともに、学級活動における話し合い活動の充実を図る。
- (4) 授業と連動した読書活動（調べ学習等）、専門委員会と連動した読書活動の推進。